

## 高等学校公民解答用紙（解答例）

その3

[ 5 ]

(1)	a 吉田兼好	b	愛
(2)	「花」とは観客に与える能の美しさ、感動のたとえであるが、それはすべてを表現するところではなく、切り詰められた表現、秘められた表現においてこそ現れでてくるという意味。		
(3)	仁斎が強調した誠とは、「真実無偽」の在り方であり、「わたくし」のない心情の純粹さを意味しており、他者に対する心情の真実さに生きるなかに、人と人との和合を第一とし、清き明き心を尊んだ古来からの日本人の倫理観が見られるから。		
(4)	内村がその生涯を捧げようとしたイエス（Jesus）と日本（Japan）を指す。イエスへの信仰と日本への愛は矛盾するものでなく、むしろキリスト教精神の中に日本人のとるべき道が示されている、と考えた。		
(5)	「自己本位」とは、他者に迎合するような生き方ではなく、他人に依存せず、自分の考え信ずるところを基本におくこと。ただし、それは単なる利己主義ではなく、自他が互いを尊重しあい、それぞれの個性を十分に発揮して生きていけることを意味する。		

[ 6 ]

(1)	哲学とは知を愛し求めることであるが、自己の無知を自覚しなければ知を求めようとはしない。そういう意味で無知の知が哲学の基本だと言える。		
(2)	ア	思惟を属性とする精神と、延長を属性とする物体は、原理的に異なったものとする考え。	
(2)	イ	スピノザは本来的に実体と言われるものは神であり、精神と物体は神が有する無限の属性のうちの二つにすぎないと考えた。	
(3)	五蘊		
(4)	名 称	貪	意 味 食りの心。
(4)	名 称	瞋	意 味 怒りの心。
(4)	名 称	癡	意 味 おろかさ。
(5)	万物斉同		
(6)	イドは、性的衝動を中心とする本能的な欲求のエネルギー（リビドー）がたくわえられた無意識の部分であり、快楽原則に従って行動しようとする。また超自我は両親や権威による躰などから形成された良心にあたり、イドに対立する。自我はこの両者の要求を現実原則に従って調整しようとしている。		
(7)	ことばの価値は、他のことばとの差異によって決まる。言語は我々の意志とはかかわりなくすでに与えられている慣習的な体系である。我々はことばによって考え、他人と意見を交換するが、話す主体はすでに社会的な構造としての言語体系に組み込まれている。したがって、一見、自立的とみえる個人も、この言語体系の中でしか考えることはできない、とした。		